

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	平成21年6月10日	評価結果市町村受理日	平成 21年 9月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000710&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000710&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年7月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・喜怒哀楽が出しやすい環境にある!</li> <li>・職員が明るい!!</li> <li>・食事が充実している!!!</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、同法人が運営する他事業所と廊下続きでつながっている。医療面でも診療所から柔軟な協力が得られるなど、他サービスとのスムーズな連携に加えて、防災面も様々な場面想定の実施や地域住民との協力体制など、利用者や家族の高い安心感につながっている。また利用者の様子を家族に伝える「家族通信」は様式を統一せず、作成する職員一人ひとりの創意工夫が活かされた内容となっており、家族からの信頼も厚い。利用者一人ひとりへの視点も丁寧に共有されており、職員の配慮に満ちた対応が、利用者のグループとしての連帯感につながっている。利用者が集う場面の優しい雰囲気や、一人ひとりの微笑みをたたえた表情から、理念として目指している「ぬくもりと安らぎの場」が名実ともに感じられる事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成21年度

## 自己評価および外部評価結果

事業所名:グループホームたのはた虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目のつくところに掲示し意識づけしている。	「ぬくもりと安らぎ」という法人理念を背景に、健康、清潔、安心をキーワードとして実践している。理念は、職員の目につくところに掲示し職員会議等では常に理念に立ち返り検討するなど、職員間での共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加や見学をさせていただいており、独自の広報を発行(配布)し理解を深めていただくよう取り組んでいる。 また、普段の買い物に同行し、店員さんと顔馴染みになっている。	村の中心地に立地しているものの、周辺は人家もまばらで、近所づきあいとしての交流は少ない。地域のお祭りや運動会などに参加するほか、馴染みのデイサービス利用者が訪ねてくる時もある。	事業所敷地内には多くの他事業所・機関があり、結果として地域住民が集まりやすい環境にある。法人としての催し物の中で交流の機会を得ていくことは、一つの有効な方法と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の活動はないが、地域の方々から相談を受けた際は関係機関に報告し、対応してもらえる体制ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや状況報告をしている。前回の自己評価を踏まえて、消防署員にも出席してもらう予定でいる。	3ヶ月に1回開催している。事業所の現状報告や行事計画、サービス評価等を話題にしているが、事業所では参加者からの主体的な意見をもっと得ていきたいとしている。	今後は、話題を生活に密着したものとなるように検討し、会議のネーミングも含め推進会議の活性化や親しみやすさの向上を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今のところ推進会議のみである。前回の外部評価を踏まえて、まずは日頃の事業所の様子を見てもらうことから始める計画をしている。	役場は近くにあり、日頃から行ったり来たりしている関係にある。今後は、日常の事業所の様子や仕事の状況をよく見てもらいながら、協力関係を深めるようにしたいと考えている。	隣接していることでの連携の取りやすさは大きな強みであり、地域への働きかけなどにおいて意識を共有し、間接的なバックアップを得ていくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという認識で対応している。危険が伴うと考えられる場合には施錠することがある。 8月に内部研修を予定している。	職員は、身体拘束は絶対してはならないとの共通した認識を持っている。なお、事業所前が急な坂道のため冬場の凍結時に転倒防止等の安全面から一時的に施錠するときもあるとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	経営理念、職業理念から虐待はあり得ないことという意識の中で携わっている。万が一、虐待につながるような対応がみられた場合には、その都度職員間での声掛けをし合える状況にある。 11月に内部研修を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受講しており、必要時に相談に乗っていただける体制が出来ている。 3月に内部研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学していただいている。 改定については、面会時に説明したり文書の他に電話での説明をし理解納得を図るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情窓口を設置している。利用者から個々に聞き取りをした場合は報告書を提出し、全体会で話し合いを持っている。 今年度も12月頃に家族アンケートを実施する予定でいる。	家族アンケートで電話や職員の対応等について意見を訊く予定である。家族は頻繁に面会に来れない人も多いが、面会時には事業所への要望等を聞くようにしている。また、家族通信を2ヶ月に1回発行している。	家族通信は利用者一人ひとり異なる内容となっており、そこから伝わる本人の様子や職員の姿勢は、家族の安心感につながっている。今後も継続し、信頼を高めてもらいたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に会議や随時、意見や提案をし助言いただける機会を作っている。	職場全体が話しやすい雰囲気であり、管理者も職員の意見を積極的に聞くよう努めている。開設から5年経ての振り返りを意見として得ていきたいとしている。	開設5年を迎え、職員一人ひとりの気持ちを活かすための皆で話す機会を設けることで、今後の事業所の方向性が確かなものになると考えられる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援をしていただくなど努めていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を予定している他、外部研修の機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会に参加することで交流の機会を作っている。 他GHを訪問し勉強させてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや見学にいらした際に、傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点で他のサービスの話もさせていただいているが、殆どの方が既にサービスを受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの習わしや調理方法を聞いたり、役割的なものをしていただくことで共に支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信や面会時に近況を知らせている。随時状況報告や相談をし、その都度最善と思われるものを一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問やドライブに出掛けている。馴染みの人との関係が途切れないようにすることは困難な場合があると感じている。	故郷訪問等を行い、家族や馴染みの人とのふれあいを通じて関係を深めている。一方で地元の知り合いが亡くなっている場合も多いため、入居してからの人間関係を支援していくことも併せて心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士で情報を共有し、利用者同士の関係を把握するようにしている。職員が間に入っていることもあり利用者同士の関わり合いは密接な方といえると思う。支え合っていることも多々あると思うが、それゆえにお互い負担を感じることもあるのでは？		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は他事業所等でのフォローが十分で場面はなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取りをしている。その内容は情報共有している。	日常の会話の中で出た利用者の言葉や希望等を丹念に集め、ケース記録に記載している。何を望んでいるかを理解することには難しさが伴うとしながらも、新たなアセスメント様式で非常に丁寧な検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、家族やケアマネからいただくように努めてはいるが独居の方の情報収集が難しいことが多い。この4月～5月:生活歴等、再度見直し(聞き取り)し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全入居者のアセスメントを全職員で行った。日々の過ごし方を細かいことまで記録し申し送りし把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ごとにケース記録のまとめとカンファレンスを行い介護計画をたてている。	今年度は、各利用者の基礎的な情報を職員全員で共有するため、全員のアセスメントを時間をかけて詳細にわたり行った。それを基にカンファレンスを行い、家族の同意を得て介護計画を作っている。	事業所では計画に、より個性を引き出せればとの思いがある。丁寧なアセスメントは既になされているので、そこから関係者が共有すべき利用者の個性を見出していてもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい内容まで記録に残し重要なことは日誌に掲載し、申し送りを行って情報共有している。毎月のケース記録のまとめやカンファレンスにて介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院、美容院に付き添っている。通院は基本的に家族対応となっているがご家族が付き添えない状況が殆どでGHで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て消防訓練をしたり特養の慰問を見学、教育委員会を介してボランティアの絵本の読み聞かせがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所で健康診断を受け、随時対応してもらえるようになっている。また、近隣病院にも協力機関になっていただいている。遠方医利用の入居者については家族対応で通院していただいているが、その際には情報提供の支援をしている。	大方の利用者のかかりつけ医は隣接している診療所の医師で、診察の際には職員が事業所での様子を伝えている。また、遠方のかかりつけ医の利用者の受診時には事業所での様子などの情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所や施設の看護師に相談・対応してもらえる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換に努め対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いは行っていない。方針としてあげてはいるが必要であれば対応する考えでいる。	職員の配置等を考えると重度化や終末期対応は難しい。一方で法人として特養への移動という対応も調整できるほか、家族や本人の強い要望があり、事業所で何とか対応が可能であれば検討していく予定である。	特養も屋根続きで移動時に違和感も少ないほか、事業所での対応を検討する際には診療所の協力も心強く、大きな強みとなっている。本人や家族の意向に沿いながらの検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月に内部研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協力者の体制がある。非難訓練をしている。	法人では、事業所の他に特養、デイ、診療所等が設置されているので、近隣の人を地域協力者として、ヘルメットや防災グッズを配布して協力をお願いしている。また訓練は、毎月避難訓練や消火訓練等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録類は利用者などから見えない所に置いている。トイレ誘導の声掛けや便の確認など他者に聞こえないようにしている。言葉を選んだ声掛けをしている。訪室の際はドアノックする等している。	利用者の尊厳を重視し、異食防止の声掛けや排泄の支援は、本人を傷つけないよう配慮している。またケースファイル等の個人情報等は、利用者の目の届かない所に保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で引き出すようにしている。必要であれば個々に話す機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うよう努めてはいるが、車両調整や通院介助等で沿えないこともある。一部、物理的に無理なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は外出用の服を着たり、帽子やスカーフを準備しおしゃれしている。普段の身嗜みでお化粧している。理髪・パーマに出掛けている。毛染めは小遣いの関係で職員が施すことが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時に献立の希望をきいている。好きな物の購入や外食も随時している。準備や片付けも一緒に行っている。	食事の準備と後片付けはできる利用者には手伝ってもらい、世間話をしながら行っている。また昼の献立は、朝、利用者の希望を聞き提供している。お花見弁当や外に出かけて食事を楽しむ時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握している。必要な方に粥・キザミなど提供している。排便間隔があく方は水分摂取量を記録し残している。月に1回献立のチェックを栄養士より受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けをし、一人では十分にできない方へ支援している。義歯は毎日洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便はチェック表を用いて状況に応じ水分・薬・散歩の提供をしている。 排尿の支援が必要な方には様子を見て誘導している。	排泄に介助が必要な利用者は少なく、見守りでの対応が多い。必要な利用者には努めて水分を多く摂るよう配慮したり、適切な排泄を促すために散歩等で体を動かすようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ、水分補給や散歩を促している。 随時、受診などもし予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の希望はない為、毎日午後入浴を提供している。利用者同士である程度の順番が決まれば個々に沿った支援をしている。	入浴は毎日午後利用者が全員が入っている。入る順番などは利用者間で自然に決まり、習慣となっている。気が向かない人でも「散歩にいきましょう」など誘い方を工夫して入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ペットボトルに湯を入れて湯たんぽがわりにしたり、それぞれ好きな時間に休憩を取っている。夜間眠れない時はお茶を飲んで少しの時間過ごすなど希望通りにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本台帳にまとめ、いつでも閲覧できる状態にある。薬変更の場合は日誌に記載し申し送りして周知している。 服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・ガーデニング・散歩などそれぞれ好きな事や得意なことをしたり、包丁研ぎ・茶碗洗いなど役割を持ち生活している。 買い物や外食、ドライブの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	危険や道路状況が悪くない限り自由に出掛けられるようにしている。自宅へ行きたい時や散髪に床屋へ行きたい時も家族の協力を得たり可能な限り対応している。	他事業所も隣接しての敷地は広大で、そのなかや外周を日常的に散歩している。また、岩泉方面や北山崎など観光地にも天気の状態を見ながらドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や他者とのトラブル回避の為、基本的にGHで管理しているが希望時にいつでも使える。面会時に自室でいただいたものは本人管理で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自発的にということもなく、電話をかけてみては？とすすめても掛けない方が多い。荷物をお受け取った時などお礼の電話で家族と話すことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や適温等に努め刺激がないよう配慮している。 季節感を取り入れやすい花は異色行為がある方がおり、かなり控えめにしている。	グループホーム、特養、デイ、診療所等の医療福祉施設が集積しているが、いたって静かな環境を保っている。共用空間は広くとっており、リビングには季節感を感じることができるようにこと七夕飾りが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に長椅子や椅子を設置している。お部屋で気の合う同士談笑していることもある。大勢の中が好きなかうで居間に自然と集まってくるが多くみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、そのように声を掛けていてベットやソファやテレビをお持ちしている方もいる。	自宅で使いなれた家具等を持ち込む利用者は少ないものの、ベットの側にソファやテレビを置き、花を飾っている居室も見られ、利用者なりの居心地のよい空間づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と思われるものの撤去、必要に応じ手すりやすべり止めの使用や履物の工夫をしている。		